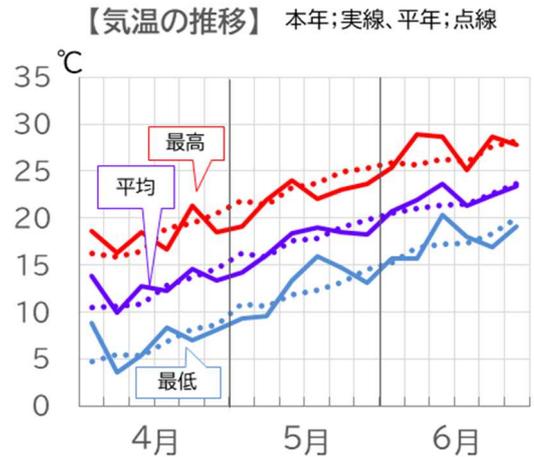


# コシヒカリの穂肥は 幼穂 1cm 確認後に施用しましょう

## 1. 生育状況

5月の気温が低く推移したことにより、生育は昨年よりやや遅れています。6月上旬以降、気温は平年並から高く推移したため、茎数や葉色は平年並に近づいています。

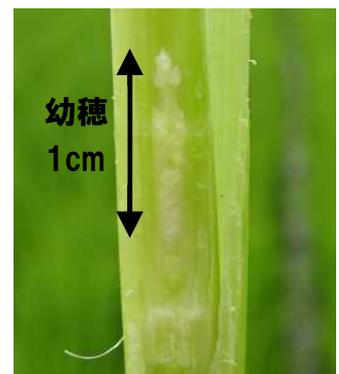


## 2. コシヒカリの穂肥時期と量のみやす

【穂肥施用日の目安(速効性肥料の場合)】

田植時期	地帯	1回目	2回目	出穂期見込み
5月上旬植	湖辺平坦	7月12日	7月26日	7月30日
	中山間	7月15日	7月22日	8月2日

- ・穂肥の基準施用量は1回目、2回目ともに窒素成分2kg/10a。
- ・1回目は出穂18日前(幼穂1cm)、2回目は中山間で出穂11日前、湖辺平坦で出穂4日前に施用しましょう。
- ・有機質肥料の場合は、肥効が出るまでに時間がかかるので3日程度早めに施用しましょう。
- ・葉色が濃い場合(葉色板3.8以上)や過繁茂の場合は、1回目の穂肥を遅らせ、施用量も減らしましょう。



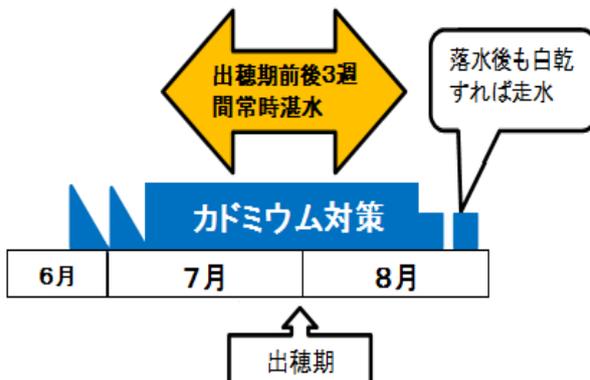
- 全量基肥体系で夏期に異常高温となった場合、出穂期から穂ぞろい期に窒素成分で1～2kg/10a 追肥をしましょう。  
特に、今後の生育や気象条件から追肥の必要性が高いと見込まれる場合は、別途情報を発信します。

注意！「環境こだわり農産物」の場合

**化学肥料の窒素分量 4 kg/10 a 以内**を守ってください！

### 3. 湛水管理を確実に

- 出穂前後各3週間は湛水管理を確実に行いましょう。
- 湛水管理は米の品質向上とカドミウムを吸収させないために重要です。尻水戸を閉じ、かけ流しをせず、田面が露出しないよう管理しましょう。

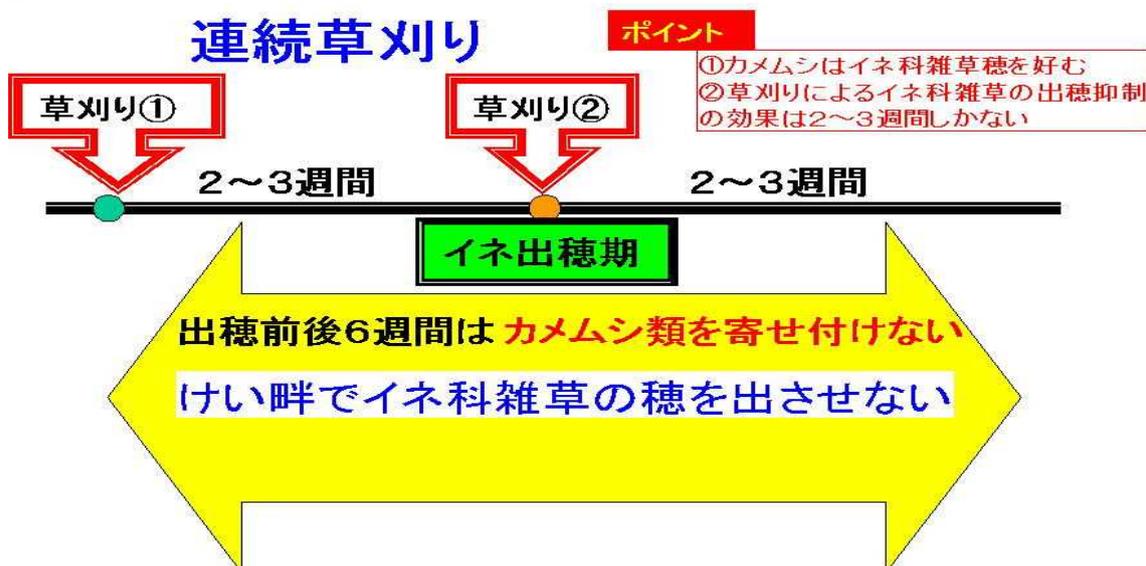


※5月上中旬植（コシヒカリ）での水管理のイメージ

### 4. カメムシ対策！畦畔を2回連続草刈

斑点米の原因となるカメムシ類は、ヒエ等のイネ科雑草の穂を好み、畦畔に集まります。

そこで、イネの出穂3週間前（7月10日頃）と出穂期（7月30日頃）の2回草刈りを行い、カメムシ類を寄せ付けないようにしましょう。



## 5. 熱中症対策を

農作業は、日中の気温の高い時間帯を避け行いましょう。

農作業中は、こまめな塩分・水分補給や休憩を行い、健康管理には十分注意するよう心がけましょう。

### ～農業情報の配信について～



- 滋賀県では、「防災・犯罪等の情報をはじめとする滋賀の安全・安心のための情報やイベントの案内など」をご希望の方へ電子メールまたはLINEで配信しています。
- 台風等の気象災害や、病虫害の発生が懸念される際に農業技術情報や農業に関するイベントの案内など農業者向けの情報も配信しています。農業に関するタイムリーな情報収集手段の一つとして、是非ご利用ください。
- 詳しいサービスの説明、ご利用上の注意および利用規約は下記の滋賀県ホームページをご覧ください。

滋賀県ホームページアドレス ☞ <http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/ict/11688.html>

#### 【農業情報を「しらが LINE」で受信する場合】



下記 URL から「登録手続き（変更・解除）」に進み、画面の「友だち追加」から、もしくは、左記 QR コードから、「しらが」を友だち追加してください。その後、LINE メッセージに受信設定用の URL が届きますので、アクセスし、希望する情報を設定してください。農業情報を受信する場合は、「お知らせ」を受信設定後、改めて登録変更画面から「お知らせ」の中の「農業情報」を受信設定してください。

☞ URL : <https://www.pref.shiga-info.jp/ShiraLineWeb/service/index>